

天才アート KYOTO®



天才アートとは、障害のある人やひきこもり者などの多くがもっている優れた感性と表現力、そこから湧き出る独創的なアート作品に対して、NPO 法人 障害者芸術推進研究機構（天才アート KYOTO）が独自にネーミングしたものです。当機構は天才アートを推進し、その啓発・普及活動を積極的に行っています。



発行日 2022年1月20日（木）

発行者 特定非営利活動法人  
障害者芸術推進研究機構

**天才アート KYOTO**

発行所 〒603-8226  
京都市北区紫野西舟岡町2番地  
ふれあい共生館「きたアトリエ」  
info@tensai-art.kyoto  
<http://tensai-art.kyoto>

編集協力 株式会社 三六六

天才アート

検索



『イタリアのギター弾き』 いしい こうた Ishii Kota 1995 年生 クレパス・アクリル絵の具・アートボード 540mm × 380mm 2021 年作



# 第9回天才アート展 「OPEN STUDIOS (オープン・スタジオ) 2021」開催

2021年9月25日(土)～10月10日(日)まで、第9回天才アート展「OPEN STUDIOS (オープン・スタジオ) 2021」を、

拠点である天才アートKYOTOきたアトリエ(ふれあい共生館内)にて開催しました。この展覧会は、昨年5月の「きたアトリエ」への移転後初のアトリエ公開型の作品展です。天才アートKYOTOの登録作家40人による約320の作品をきたアトリエに一堂に展示し、会期中「いま、作品が生まれる」リアリティを感じてもらうため、作家による公開制作も行いました。その展覧会に合わせて京都新聞や読売新聞からも



京都新聞に掲載された記事 (京都新聞社提供)



作品展示とともに作家の制作の様子が見られると好評の会場設営

取材を受け、両紙ともに記事として大きく取り上げられた効果により、地域の方だけでなく遠方からも非常に多くの方にお越しいただきました。今後も企画に工夫をこらし、天才アートKYOTOをより身近に感じていただける展覧会を開催して参ります。

## 『青空美術館 “呉竹プロジェクト”』開設

このたび、建設現場などの囲い壁に画像パネルを展示する『青空美術館』の第13号を新たに開設しました。

この青空美術館は当機構の作品アーカイブを活用して、耐候性のある大型画像パネルを製作し、工事現場の囲い壁に展示するプロジェクトです。無機質になりがちな工事現場にアートの彩りを添え、周囲に和みと華やぎを与えるとともに、不特定多数の方々に作品を紹介することができます。当機構では2013年に青空美術館第1号を開設して以来、これまで市内12か所で展示し、多くの市民や観光客から多くの反響が届いています。

今回は、京都市伏見区桃山にあります京都市立呉竹総合支援学校の校舎建替えの工事に伴って開設しました。「呉竹プロジェクト」の名称で、当機構所属作家と支援学校在校生の作品画像パネルにロゴパネル・趣意説明パネルと合わせて45枚を製作。パネル製作を株式会社SCREENホールディングスさまの全面支援、会場提供を京都市教育委員会と呉竹総合支援学校、パネル設営を吉村・高塚特定建設工事共同企業体のコラボにより実現しました。

会期は、2021年12月1日～2023年3月の予定です。晴天青空の日にぜひご覧ください。

●設置場所：京都市立呉竹総合支援学校 (京都市伏見区桃山福島太夫北町52)



交差点を挟んで左側に呉竹総合支援学校在校生の作品、右側に天才アート KYOTO 登録作家の作品パネルが並んでいます

# 東山区人権啓発展示

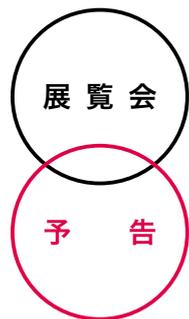
本展は東山区より依頼を受けて2015年度より開催し、今回で第7回目となりました。今年も12月13日(月)から24日(金)まで開催しました。当機構の2千点を超える作品アーカイブを活用した「作品ポスターパネル」20点を展示しました。

作品ポスターパネルはB1判サイズ(タテ1030×ヨコ728mm)で、東山区総合庁舎1階の展示ホールを会場に、大型の作品ポスターパネルが醸す迫力と個性的な作品群が一堂に鑑賞でき、たいへん好評でした。

なお、この作品ポスターパネルは貸し出しや販売も行っています。詳しくは当機構Webサイトを「ご覧ください」



東山区総合庁舎1階の展示ホールに設置された作品ポスターパネル



『天才アートがやってきた!!』  
公共空間にアート彩り!!』展

本年も2月3日より『公共空間にアートの彩り!!』展を開催します。会場は前回と同じ四条通り地下通路の麴屋町通付近から富小路通西入付近間100mにわたって、作品ポスターパネル50点を展示します。

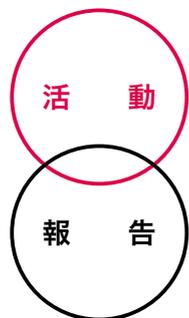


ポスターを見る市民(昨年度の様子)

本展は、当機構取蔵の「作品アーカイブデータ」を活用し、ポスターパネルにして展示します。ややもすれば無機質になりがちな公共空間に「アートの彩り」と華やぎを演出し、P2の『青空美術館』と共に通行する市民や観光客より好評を博しています。2018年より第6回目となり、これまで多くのファンが生まれています。

会期中ポスターのQRコードから天才アートKYOTOのホームページにアクセスし、お気に入りの作品やポスターを購入することができます。

会期：2022年2月3日(木)～4月3日(日)  
主催：特定非営利活動法人障害者芸術推進研究機構  
協力：京都市あるくまち京都推進室 阪急電車  
助成：公益財団法人京都オムロン地域協力基金



京都市役所  
市長市応接室に作品展示

2021年11月29日(月)から、京都市役所の市長市応接室に当機構所属作家の大場多知子さん(1977年生)の作品「朝顔」(F80号)を展示しています。大場さんは日常生活の中で見つけた「面白い、美しい、印象に残った」と感じた植物や動物などをモチーフに、時にユーモアを交えつつ、緻密に描写します。朝顔をモチーフにした本作は、文化芸術都市である京都の重厚な市役所応接室に彩りを演出し、訪れる国内外の来訪者の目を楽しませてくれるはずです。



門川大作京都市長(右)、大場多知子さん(左)

〔天才アート×チェリオ〕  
プロジェクト開始!!



天才アート KYOTO のアーカイブデータがラッピングされた自販機 (イメージ写真)

天才アート KYOTO の「作品アーカイブ提供事業」の一環として、清涼飲料「チェリオ」を展開する株式会社チェリオコーポレーション様による「天才アート KYOTO 自販機」プロジェクトが進行中です。これは作品画像でラッピングした自動販売機を設置し、文化芸術都市である京都を盛り上げ、天才アート KYOTO の認知度を高める企画です。

そこで現在、天才アート KYOTO のラッピング自販機を設置いただける方を募集しています。お知り合いの方への広報 PR をお願いすると同時に、皆さまのご協力を何卒よろしく願います。



ゲシュタルト  
崩壊フラグ

ゲシュタルト崩壊フラグ Gesyutaruto houkai furagu  
1997年生

彼女は、14歳の頃から自らを「ゲシュタルト崩壊フラグ」(注)と称しています。その作品には、(しばしば残酷で猟奇的な目にあう)少女や生物が背景に侵食され、その名の通りいつ足元から「世界そのものが崩壊してもおかしくない」危うさや不穏さと同時に、ユーモラスさが共存しています。

(注)  
「ゲシュタルト崩壊」(認知情報処理過程によって発生する知覚における現象) + 「フラグ」(伏線や予測、定型パターンといったネット上にしばしば登場するストーリー展開の用語) から

『あおいよると子ども』 W606×H727mm キャンバス・アクリル絵の具 2019年制作

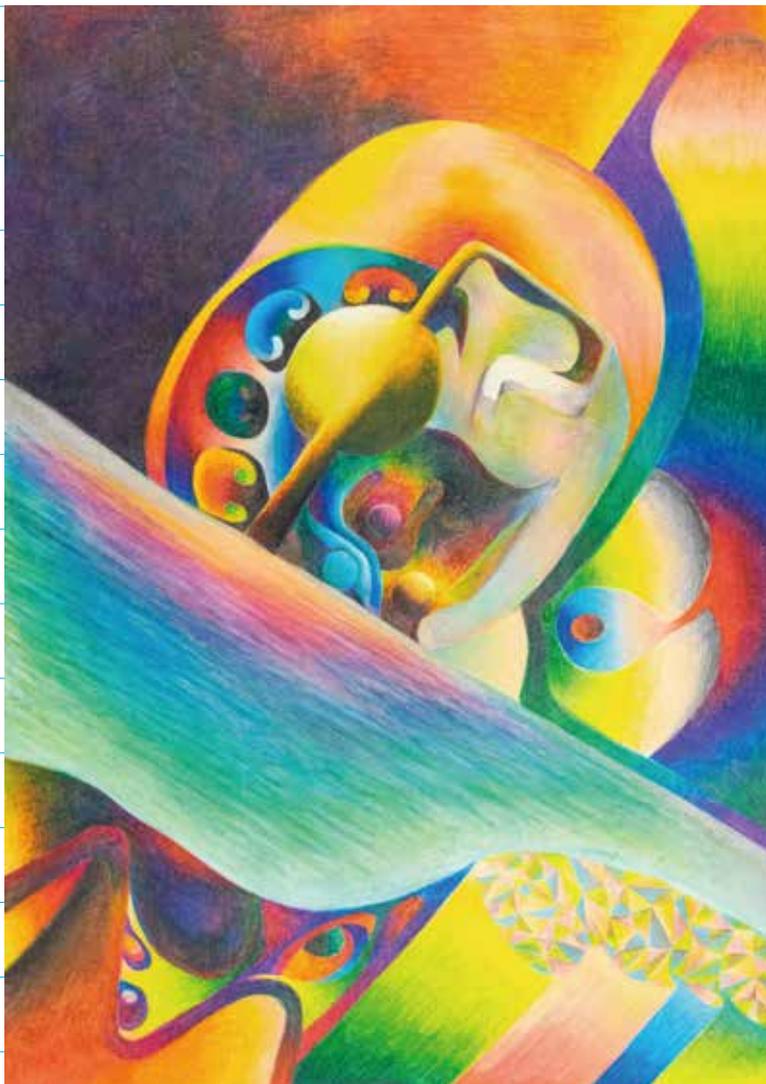


『しか』 W380×H270mm ペン・色画用紙 2018年制作



清水 元介

『魔法の靴』 W545×H392mm 画用紙・鉛筆・色鉛筆・アクリル絵の具 2020年制作



『生命創生 命のはじまり』 W210×H297mm アートボード・色鉛筆 1998年制作



『ドラマ』 W174×H270mm 色画用紙・鉛筆・色鉛筆 2019年制作

清水 元介  
Simizu Motosuke  
1991年生

きらびやかな芸能界、それを身近なものとするのが清水のモチーフです。作品は、主にコラージュとドローイングで構成され、「AKB」や「嵐」などのアイドルだけでなく、「いないいないばあ!!」などのテレビ番組のキャラクターが登場します。そしてしばしば、自身や身近な人々が画中に登場するなど、清水が作り出す夢の舞台やイベントはどれも華やかで彩りに満ちています。

若林 義輝

若林 義輝 Wakabayashi Yoshiki 1998年生

若林が絵を描く時、そこにはモチーフらしいものはありません。しかし、彼はゆっくりと「何か」を見つめるように、あるいは道を探るように描きます。そうして思索するかのように長い時間をかけて作品が紡ぎ生まれます。そして、作品が完成すると自らタイトルを付けますが、時に「無題」のままになることもあります。それは、作者にとって造型することが最大の目的であるからです。彼の作品は、自身の内側で燃え続ける「命」そのものとも言えるかもしれません。

ご家族さまより寄稿

# 絵を通して広がる一輝ワールド 三津田千恵子

## ●誕生から就学まで

令和3年の4月、息子である一輝の病気が判明しました。『悪性リンパ腫・ステロイド4』と診断され、私の頭は真っ白になりました。それまで病気らしい病気などわずらったことのない健康な青年と家族みんなが思っていました。

そんな我が家の次男である一輝の障害は、長男の言葉の遅れを相談しに行った児童相談所の先生から、「お兄ちゃんは大丈夫、ただ一輝君の方が気になる」と言われ、1歳半で知的障害を伴う自閉症と診断されました。

診断を受けてからどうやって帰宅したのか。近所のママ友に声をかけられてはじめて気づいたぐらいで、その部分だけ、私の記憶がすつぽりと抜け落ちていきます。

2歳児から洛西にある『洛西愛育園』に4年間通園します。バス通園だったので帰りのバスでは常にお昼寝状態だったのが、



大好きなパズルと三津田一輝さん

一輝にとつてかわいそうで辛いのではないかと、本なら家で昼寝させていたはずだと申し訳なく、『普通』に産んでやれなくてごめんなさいと、自責の思いで一杯でした。が、そんな思いも吹き飛ばすほど、園ではいろいろなことをさせもらい、しつても私以上にしていただき、トイレトレーニングは園さままでした。

就学時期になり、この子にとって地域の学校が良いのか、支援学校が良いのか散々悩みました。この悩みは障害がある子供の親なら通る道だと思えます。療育を受けて行く上で主人と私は、支援学校に入学を決めました。同じような子供を持つお母さん達と同じような悩みや喜びが共用できたことは、私にとって気持ち的にずいぶんと助けられました。

## ●模写との出会い

支援学校の中学部の時でした。担任の先生からの連絡帳にはその先生らしいイラストが挿し絵状態で描かれていました。しばらくすると、先生の絵の横には鉛筆で同じような絵が力いっぱい描かれています。最初は一輝が描いたものかどうか分からず不思議で、先生に聞いてみたところ「僕の絵を模写してもらってます」と。それから毎日毎日先生のイラストの横には同じような、一輝が描いたイラストがありました。

今日はどうな絵なんだろう。と、連絡帳を読むよりも、見るのが一つの楽しみになっていました。おそらくこの時が一輝にとつての得意分野であろう模写が始まったのではないかと思われれます。

そして中3の時に開設された『アトリエ金ゴゴ』の授業にも参加させていただいて、一輝にとつて楽しい時間を過ごさせてもらえるようになりました。とにかく描きはじめてから集中力が発揮され、ひたすら描いています。家でも鉛筆・色鉛筆でただひたすら描いて色塗りに没頭です。支援学校から出品してもらった絵画が表彰されたり、外国の姉妹都市への交歓作品として選んでいただいたり、家族の中では一番の賞状持ちです。

## ●天才アートKYOTOで広がる世界

高3の時、天才アートに声をかけていただき、行動範囲が広がったのは、一輝にとつても私たち家族にとつてもすごくありがたいことでした。

一輝の描いた絵がアトリエ会の仲間との絵と一緒に、あちこちに展示された



『アトリエ金ゴゴ』の授業で制作した作品

り、全く知らない人のSNS上で、風神雷神の模写の写真がアップされたりしているのを見ると、うれしくなります。

令和3年4月からの約2カ月程の入院・治療中は、制約された中でも、持参していたスケッチブックと色鉛筆で一輝ワールドを発揮してくれていました。もちろん模写です。

一輝は私たち家族に喜びを与えてくれる存在になってくれています。進行が遅い病気ではありますが、年齢的に若いのでどうなるかわからないと、言われています。

これから先、平穏に、そして、安らげるように生活していつてもらうため、いろんな面からの支援をしてくださっている方々に感謝しながら、緩く楽しく過ごしてくれることが、現在の私たち家族の一輝に対しての唯一、心からの願いです。

新理事からのご挨拶

理事 北波 博  
きたば ひろし



2021年7月1日に特定非営利活動法人 障害者芸術推進研究機構（天才アートKYOTO）の理事に就任いたしました北波博と申します。一言ご挨拶をさせていただきます。

私が初めて障害のある人のアートに触れたのは、三条寺町の角にあった画廊でした。私は中学校美術科教師をしていたのですが1997（平成9）年から中学校と高等学校の美術科教育を担当する京都市教育委員会 学校指導課指導主事になりました。職場は高島屋の南にある京都市総合教育センターでしたが会議や打ち合わせは学校指導課がある御池通の市役所で行われることもあり、寺町通を四条から御池まで往復することがありました。そんな折、少し時間がある時に立ち寄った画廊に展示されていた作品を見て驚きました。構図もよく、透明感のある色彩が美しかったのを憶えています。京都市の南の方にある病院の患者さんの作品でした。

その後、中学校長を経て美術系大学で教育課程論や美術科教育法等について教えていたのですが、その中で「アール・ブリュット」についても講義をしていました。また、天才アートKYOTOの作品展や講演会にも参加させていただきました。

共生社会の実現は、今を生きる我々に課せられた責務であると考えようになり、何かできることはないかと考えた時、障害のある人だけの作品展はあるし、障害のない人だけの作品展もありますが、障害のある人となない人の作品を一緒に展示した作品展が無かったことに気がきました。そこで勤務していた大学付属のギャラリーで「共生社会の実現に向けて一歩を踏み出す展覧会」という題名の展覧会を学生と共に実施しました。その展覧会は天才アートKYOTOから出品していただいた作品と大学の学生の作品等を交互に展示するという内容でした。観た人からは、「障害のある人となない人の作品の見分けがつかなかった」という声も多く聞かれました。

このような経験を生かして、皆さまのお役に立てれば幸いです。今後ともよろしくお願いたします。



第2回「共生社会の実現に向けて一歩を踏み出す展覧会」

理事 藤澤 三佳  
ふじさわ みか



この度、新しく特定非営利活動法人 障害者芸術推進研究機構（天才アートKYOTO）の理事を務めさせていただくことになりました。京都芸術大学の藤澤と申します。アートによる自己表現によってどのような人が意欲をもつて楽しく生きることができるとかということを考えてきて、専門は心理学とアートを結ぶあたりです。勤務大学では「芸術と心理」という科目を担当しています。

天才アートKYOTOのアトリエでアートを拝見して作家さんからお話を伺っていると、本当に自由に創作できることがうれしいと話されます。あえて「指導」はされていないけれども、「ここをどういうふうにしたらいいだろうか」とスタッフの先生に聞くと、「一生懸命一緒に考えて下さる」ということです。それは理想的なことだと思えます。なかには、指導や手を加えられることも多かったり、見学した他の施設では、先生が作品に一本線を入れただけで二度と描かなくなってしまうという例もあります。

重光先生に以前、どうしてアート活動なのかと伺うと、「本人が主体的にできる究極のものがアートだと思ったので」というお返事でした。天才アートが設立される以前から、ブルーシートを敷いて、そこで自由に描いていいと言われて、皆さんがとても喜んで表現したというお話も家族の方から伺い、作家の表現意欲に寄り添った関わり方が原点だと思いました。

ですから、天才アートは個々の作家ごとに表現が本当に多様で、個性が自由に豊かに発揮された作品が多いですね。微力ですが、天才アートの皆さんの魅力を発信・伝えていければと思っています。皆さんからいろいろな教えていただくことも多いと思います。どうかよろしくお願いたします。

プロフィール

京都大学文学研究科博士課程修了、京都芸術大学教授。単著に『生きづらさの自己表現』アートによってよみがえる「生』晃洋書房（2014）。京都芸術大学で行った平川精神科病院造形教室との共同開催の展覧会として「臨床のアート展」、「臨生のアート展」、知的障害者厚生施設みずのきアート展作品を扱った「無心の画家たち展」等。



## 作品アーカイブ提供の事業化

当機構では所蔵作品4千点の内、これまでに2千点をアーカイブ化し、高精細の作品画像として広く提供しています。40人におよぶ所属作家の作品群はいずれも個性豊かで、観る人に斬新な印象を与えます。

この「作品アーカイブデータ」を企業・自治体等に商品やパッケージ・広報誌・PR誌等のさまざまなデザインに活用していただけるよう提供しています。ご利用に当たっては規定の画像使用料を頂き、作家に「著作料」として還元することで、その経済的自立に資することを目指しています。これにより企業様のCSRあるいはSDGsの一環としても貢献できます。

所蔵作品は毎年約500点ずつ増加しており、アーカイブもボリュームアップしてゆきますので、天才アートKYOTOの個性豊かな作家と作品群からイメージにマッチするものをぜひご採用いただけますようお願いします。

### ◎ご採用例(敬称略)

ふるしき・むすび◎ 山田繊維株式会社/和ろうそく・有限会社中村ロソク/市民啓発用エコバッグ他・京都市環境政策局/京野菜販促パッケージ・一般社団法人京都発明協会/季報表紙・公益財団法人世界人権問題研究センター/広報誌表紙・株式会社増田医科器械/会誌表紙・フィランソロピー協会/年賀はがき・SCREENホールディングス他  
 【Web】 [http://tensai-art.kyoto/activity/archive\\_of\\_works](http://tensai-art.kyoto/activity/archive_of_works)、または検索「天才アート」

## 会員・寄付およびボランティアさんを募集しています

障碍のある人のアート創作活動を推進するために、作品を創る環境を整え、作品をアーカイブ(記録・保存)し、作品を商品化するアイデアを出して実現させていくこと、活動をPRしていくこと…など、サポートしていただけることはたくさんあります。アートを勉強中の学生さん、さまざまな分野で活躍されている社会人の皆さん、社会貢献に興味のある方、特技やノウハウを活かして、私たちの活動にぜひ参加してください。●以下のような活動に関わっていただける方を募集しています。

- ①会報・広報活動の企画・編集
- ②作品のデザイン化・商品化などの企画
- ③その他、得意分野を活かした活動など詳しくはホームページをご覧ください。  
<http://tensai-art.kyoto>

## 会報広告主さま募集中!

『会報 天才アート』は、展示会の予告や報告をはじめ、さまざまな活動報告、登録作家の作品紹介やご家族からの寄稿文など、当機構に関わる情報を掲載しています。会報の発行部数は毎号3,500部で、会員・協賛団体、関係機関、各地の美術館などに配布・配架をしています。

当機構の活動にご賛同いただける企業さまや団体・組織の広告協賛を募集しています。

す。ぜひともご協力をお願いします。  
 1枠(55×22mm)・・・1万円(4回掲載)

●お問い合わせ・お申し込みは、

[info@tensai-art.kyoto.jp](mailto:info@tensai-art.kyoto.jp)

### ＜編集後記＞

新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

2022年の干支は「壬寅(みずのえとら)」で、「陽氣を孕み、春の胎動を助く」という意味があるそうです。厳しい冬を越えて芽吹き始め、新しい成長の礎となるイメージでしょうか。新型コロナウイルスも収束までには至らず、天才アートKYOTOのアートリエでの制作活動も今までは違った状況が続きますが、明けぬ夜はないといわれるように、しっかりと足元を見つめ、新たなステップの年にしていきたいと考えています。

今後とも、われわれの活動にご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

### 【表紙の作品について】

いいの作品はその多くが「人の感情や「動物」をモチーフとしており、近代絵画や漫画表現などからの影響も食欲に受け入れ、混沌とした世界を描き出します。アクリル絵の具やクレパス、鉛筆などを用いて、一度制作に取りかかると止まることない雄牛のような勢いでパワフルに描きます。

特にこの作品「イタリアのギター弾き」は、刻むように、塗り固めるように描かれ、その筆致の激しさと裏腹にどこか哀愁を帯びています。



『イタリアのギター弾き』いしい こうた Ishii Kota 1995年生 クレパス・アクリル絵の具・アートボード 540mm×380mm 2021年作

## 広告協賛企業 (順不同)

わたしたちは天才アートKYOTOの活動に賛同しています



夢、そして誇り。この街で…  
**洛和会ヘルスケアシステム®**  
 洛和会丸太町病院 洛和会音羽病院 洛和会音羽記念病院  
 洛和会音羽リハビリテーション病院 洛和会東寺南病院



京都上鳥羽の印刷会社  
**(有) 森田美術印刷**  
 京都市南区上鳥羽火打形町12 ☎075-692-3131

妙心寺 塔頭  
**養徳院**  
 永代供養のお寺 075-461-2898



**吉村建設工業(株)**  
 京都市中京区西ノ京小倉町135番地  
 075-802-1360

画材・額縁  
**画箋堂**  
 京都・河原町五条

一級建築士事務所  
 町家・古民家再生/マンション改修  
**(株)共立ホームエンジニアリング**  
 06(6788)5402 [kap@hyper.ocn.ne.jp](mailto:kap@hyper.ocn.ne.jp)

